

第3単元 わり算の筆算(1)A

問題番号	配点	解 答(許容)	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	20 (各5)	① 40 ② 30 ③ 300 ④ 600	知技 何十、何百、何百何十、何千何百÷1位数の計算ができる。	わる数×商=わられる数になることを確認し、かけ算(例： $2 \times \square = 80$)で考えられるようにする。
②	50 (各5)	① 15 ② 13あまり6 ③ 20あまり2 ④ 30あまり1 ⑤ 11あまり3 ⑥ 32 ⑦ 205あまり2 ⑧ 32あまり3 ⑨ 91あまり3 ⑩ 60あまり4	知技 2、3位数÷1位数の筆算ができる。	筆算形式の意味についての理解を確実にする。 (例) $\begin{array}{r} 5 \\ 10 \end{array} > 15$ $\begin{array}{r} 5 \\ 5 \overline{) 75} \\ \underline{50} \cdots 10 \times 5 \\ 25 \\ \underline{25} \cdots 5 \times 5 \\ 0 \end{array}$
③	10 (各5)	364÷7=52 (364÷7) 52こ	知技 場面に応じた立式ができる、問題を解決することができる。	数直線やテープ図を使って考えられるようにする。
④	10 (各5)	61÷5=12あまり1 (61÷5) 1人分は12まいになって、1まいあまる。		
⑤	10 (各5)	48÷6=8 (48÷6) 8倍	知技 倍を求めるのに、除法を使うことを理解している。	数直線やテープ図を使って考えられるようにする。

第3単元 わり算の筆算(1)B

問題番号	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	7、8、9 (順不同)	思判表 商の大きさの見当をつけ、どの位から商が立つかを考えている。	□に実際に数字をあてはめて考えさせる。
②	①	思判表 筆算の仕組みについて考えている。	24は、実際は $40 \times 6 = 240$ の240であることを確認する。
③	① ウ ② ○ ③ ア	思判表 除法の筆算の仕方について、説明している。	商の立つ位置を確認し、3年のあまりのあるわり算の学習を想起させ、あまりの意味を確認する。

▶思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	7～6問	5～4問	3～0問

▶主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容 記述内容	3項目とも意欲的であり、学習の感想とさらに学習したいことの2観点で書かれている。	3項目ともおおむね意欲的であり、学習の感想とさらに学習したいことのどちらか1観点で書かれている。	どの項目も消極的であり、学習の感想とさらに学習したいことが書かれていない。